

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

《人社系》

●岐阜女子大学文化創造学研究科文化創造学専攻

「実践力のある上級デジタルアーキビスト育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

本プロジェクトでは、図書館や博物館、教育、企業のメディア関係等から要望の高い、実践力のある上級デジタル・アーキビストの育成を目指したため、育成対象となる院生も学部卒のみでなく、各分野からの社会人入学生、他大学院の卒業生など幅広い、そのため、平日開講とは別に、平日開講科目と同様の科目を、休日（土・日・祝）にも開講し、あらゆる立場の院生に受講機会を設けた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

平日開講（毎週講義）と休日開講（集中講義）と講義形態が異なることにより、講義内容に差が出ないように、テキストの作成、補助教材の作成などを含め配慮した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

社会人入学の院生も働きながら学ぶことが可能となり、上級デジタル・アーキビスト取得者数は通学制では100%（通信制を含めた割合は72.4%）と、平日開講では受講が困難と予想される院生についても資格取得を可能とした。

《医療系》

●神戸大学保健学研究科保健学専攻

「アジアにおける双方向型保健学教育の実践」の事例

(具体的に何を実施したのか)

当初このプログラムは、通常の講義と同様、年間を通じて開講することを計画していたが、本プログラムに参加した学生は社会人が半数以上を占めていたことにより、夏期（8月の連続した7～10日間）や週末（毎週土曜日を4週続ける）を利用した集中講義とした。日本で実施される講義に関しては、海外提携校（4大学）からそれぞれ1～2名の教員と2～4名の学生を招聘し、講義は日本人と外国人の教員が分担した。海外でのフィールドワークに関しては、従前から共に研究したことのある研究者との人脈とフィールドを利用した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

集中講義の期間に合わせて海外の教員や学生を招聘するためには各国の事情を考慮して事前の連絡・調整が不可欠であった。また、日本人学生の派遣に関しても、社会人学生の予定を確保するために、早めに計画を確定し、長期休暇を取れる時期に実施出来るよう注意を払った。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

平成 20 年度からの 3 年間に、プログラム指定の単位を取得・登録した日本人学生数は、平成 20 年度で 25 名、21 年度 75 名、そして平成 22 年度は 102 名に達した。社会人学生も参加できるプログラムを実施できたことで、全体のうちの半数以上が社会人学生であった。

●熊本大学医学教育部

「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」の事例

(具体的に何を実施したのか)

社会人学生、遠隔地学生、外国人留学生および出産・育児等により日中の講義に出席できない学生への支援として、e ラーニングシステムを構築した。講義のビデオ収録を実施し、パワーポイント・スライド原稿と組み合わせたオンライン教材を作成し、WebCT によるオンライン受講が出来るようにした。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

理解度チェックのための小テストの挿入やレポート等の提出により、オンライン受講が実質的・実効的となるよう配慮した。また、e ラーニングコンテンツの完成状況や履修方法などを医学教育部のホームページに掲載し、さらには、e メールで通知するなどして、e ラーニングシステムの利用を促進した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

平成 21～22 年度に実施した博士課程の講義・演習科目について、全コマ数 779 のうち 301 コマ (39%) が e ラーニングを利用 (併用を含む) して実施された。大学院学生へのアンケート調査 (回答率 73%) の結果において、39%の大学院学生が e ラーニングシステムを利用しており、94%の大学院生が「e ラーニングは有意義である」と回答しており、e ラーニングの必要性和実効性が認められている。

●沖縄県立看護大学保健看護学研究科保健看護学専攻

「島嶼看護の高度実践指導者の育成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

社会人学生のための長期履修学生制度を新たに導入し、また、博士前期・後期課程の 9 つの新科目のすべてを土日開講や集中講義で実施することで、学業と就業が両立できるような学習環境の充実を目指した。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

社会人学生が就業しながら学習できる環境を作るために、就業している管理者と在学生、教員とのコミュニケーションを密にし、可能な限り授業や研究活動が適切に遂行できるようにした。

1. 特に効果的であり改善に資した事例

E. 学習・研究環境の改善

③昼夜開講、休日開講などによる社会人学生等への履修上の配慮

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

長期履修学生制度を活用した学生もいたが、職場の勤務形態の配慮などがなされたため博士前期課程の学生に関しては2年間で全員修了することができた。本大学院の入学者の約9割は社会人学生であり、長期履修学生制度が導入されたことで、社会人学生のほとんどがその制度を活用しており、学生・教員ともに学習時間の確保と経済的支援体制の基盤になっている。